

2017年童謡文化賞

2017年(第16回)童謡文化賞の贈呈者を、下記の通りに決めました。なお、賞の贈呈式は2017年6月30日(金)、東京ガーデンパレスにて午後6時より開催、終了後祝賀パーティーを行います。

童謡文化賞

(賞状、盾及び賞金30万円)

福島県広野町

贈呈理由

福島県広野町は唱歌「汽車」にゆかりの地と言われている。また童謡「とんぼのめがね」の作詩者額賀誠志が内科医院を開業していた地である。

これに因んで広野町は、1994年(平成6年)以来「豊かな心を育む交流と文化のまちづくり」を事業の一環として、「童謡」の振興と世代を越えて歌い継がれる新しい「童謡」の創造を目指した町づくりに取り組み、「ひろの童謡まつり」を開催している。

「ひろの童謡まつり」は現在第22回となる。

「ひろの童謡まつり」の内容は開催当初「童謡作詩コンクール」と「童謡コンサート」が中心であったが、2007年(平成20年)第15回は「作詩・作曲コンクール」、翌年第16回は「童謡合唱コンクール」が行われた。

第17回は同じく「童謡合唱コンクール」であったが、このとき声楽家眞理ヨシコ氏が広野町より「広野童謡大使」を委嘱されている。

「ひろの童謡(うた)まつり」からはこれまでに28曲の新作童謡が誕生している。これらは広野町の多くの人々に愛唱されているが、「全国・童謡こどものうたコンクール」や全国各地で開かれる「童謡コンサート」においても愛唱され、広く一般に知られるようになった。中でも「はなのうみ」「まつぼっくり」「ザリガニくん」などは童謡名曲と言われる。

2011年(平成23年)3月11日、広野町は東日本大震災、福島原発事故により被災し、住民の多くが町外あるいは県外に避難した。

2012年(平成24年)広野町は“ふるさと復興、希望の年”として、「ひろの童謡まつり」を再開した。

被災後6年となる2016年第22回「ひろの童謡まつり」は“未来への願い”と題し開催されている。

広野町が長年に亘って精力的に取り組む「ひろの童謡まつり」はわが国の童謡の歴史に大きな足跡となるものであり、その業績は極めて高く評価される。

2017年童謡文化賞を贈賞したい。

(甲賀一宏 記)

受賞者紹介

広野町は福島県浜通り地方の中部、双葉郡の最南端に位置し、東は太平洋、西は阿武隈山脈に囲まれ、一年を通して温暖な季候にある。東日本大震災に伴う原発事故の影響により、全町民が町外へ避難を余儀なくされ、現在は約8割の町民が帰還しているが、未だ復興の道半ばにある。震災前の生活を取り戻すため、「いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町」を標榜し、ふくしま・双葉地方のふる里復興・再生のため新しいまちづくりに取り組んでいる。広野町は、童謡「とんぼのめがね」の発祥地であり、唱歌「汽車」の舞台であるとされていることから、“童謡のまち”として眞理ヨシ子氏を広野町童謡大使に迎え、童謡文化の普及と継承に務めてきた。全国からの公募による“広野で生まれた童謡”は28曲を数える。平成6年から開催し、今年で23回目となる「ひろの童謡まつり^{うた}」は町のメインイベントであり、出演者の歌声は多くの来場者の心に響き、“心の復興”に寄与している。

童謡文化賞

童謡文化賞は、童謡の創造と振興を図る一般社団法人日本童謡協会が、「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とする東京書籍株式会社の協賛を得て創設、2002年からスタートした賞です。日本の貴重な文化所産である「童謡」の普及発展に寄与する、個人もしくは団体の優れた業績を讃えて、贈賞するものです。

<2017年童謡文化賞審査委員会>

一般社団法人日本童謡協会会長	湯山 昭
一般社団法人日本童謡協会副会長	宮中雲子
一般社団法人日本童謡協会理事	甲賀一宏
声楽家	眞理ヨシコ
東京書籍株式会社代表取締役社長	千石雅仁